

無名草子 清少納言

作者 不明(藤原俊成女か)

成立時代

鎌倉時代

ジャンル

評論

P 158 L 1 ありがたし(有り難し)：(分相応に出すぎた人が、そのままです例は、滅多にないことのようにだ。)

L 3 しらす(領らす)：世の中をお治めなさった当初

L 3 時めかす：時勢を得て榮えていらっしやる

四、清少納言が出仕したのはいつごろか。本文中から抜き出しなさい。

※ヒント※ 二、の問題文中にあります。

・清少納言は、『枕草子』に皇后定子一門の盛りのころのことをたくさん書いている。しかし、この部分だけでは不十分。当時の天皇や関白が誰だったか、わかる部分も含めて抜き出せるようになっておこう。

五、「さばかりなりけるほどよりは」(一五八・6)は、どのようなことをさすか。

・「よりは」で「父よりは」と比較している。「すぐれざりける」↓(歌が)優れていなかった。

L 7 ①後拾遺などにも、むげに少なく入りて侍るめり。：①八代集の四番目。

復習

古今・後撰・拾遺・後拾遺・

金葉・詞花・千載・新古今

※教科書P 158下段⑨申し請ひて：けるにや 『枕草子』九十五段

いと久しう鳴りて、少しやむほどには暗うなりぬ。ただ今、なほこの返事たてまつらむとて、取り向ふに、人々、上達部かんたちめなど、雷の事申しにまわり給(れば、西面にしおもてに出で居ても聞えなどするに、まぎれぬ。異人ことひとはた、さして得たらむこそせめ、とてやみぬ。なほこのことに宿世すくせなき日なめりと、くんじて、「今は、いかで、さなむ行きたりしとだに、人に多く聞かせじ」など笑ふ。「今も、なか、その行きたりし限りの人どもにて言はざらむ。されど、させじと思ふにこそ」と、物しげなる御けしきなるも、いとをかし。「されど、今は、すさまじうなりにて侍るなり」と申す。「すさまじか、べき事かは」などのたまはせしかど、さてやみにき。

現代語訳

とても長い間、雷が鳴って、少し雷が弱くなる頃には暗くなってしまった。今から、この返歌を差し上げようと思って、取り掛かったのだが、上達部などの高位の人たちが、雷のお見舞いを申し上げにやってくるので、西向きの部屋に出て応対しているうちに、紛れてしまった。他の女房たちは、自分に送られてきた歌にはやはりご自分で返歌をすべきだということで、話が終わってしまった。清少納言はやはり今日は歌に前世からの縁が無い日なのだろうと落ち込んで、「今はもう、どうにかしてそこまで郭公の声を聞きに行ったということ、人々にむやみに聞かせないようにしよう」と言って笑った。「今でもそこに行った人たちだけの間で話せば、歌を詠めるはずなのに。だけど、詠みたくないと思っているのです」と、ご不満そうな中宮様のご様子もたいそう面白い。「しかし、今はもう興奮ぎめになってしまったのです」と申し上げる。「面白くないということはないでしょうに」などと中宮様はおっしゃったが、そのまま歌を詠まずに終わってしまった。

九、「乳母の子なりける者に具して、はるかなる田舎にまかりて住みける」(一五九・5)ようになったとあるが、直接的な原因となった部分を、二十五字以内で本文中から抜き出しなさい。

・田舎に住まなければならなくなったのは、頼りになる人がいなくなったから。関白殿と内大臣がいなくなったことが読み取れるが、この二人がいなくなったことをまとめて「頼りになる人がいなくなった」と言っている部分があるので、そこを見つけないこと。

P 159 L 4 かけても言ひ出でぬほどの：かけても十打消Ⅱ決してくはない↓決して言い出さなかった(書き記さなかった)

※教科書P 159下段⑩青菜と

「襖など」とする説。

元の書物は「あを」とひらがなだった可能性がある。それを教科書として印刷するにあたり「青菜と」「襖など」二つの漢字に当てはめられる説を並べている。

「襖」(庶民の服) ↑ ↓ 「直衣」(皇族、貴族の日常服) の対立の方が、田舎で粗末な暮らしをしていることが際だっていいかも知れない。

玉勝間 兼好法師が詞のあげつらひ

【作者】 本居宣長 成立時代 江戸時代 ジャンル (学問的) 随筆

三、「待ち惜しむ」(一六四・4)とあるが、何を惜しむのか。

P 164 L 4 待ち惜しむ：(花の盛りの時期を) 待ち、(花が散ることや月が隠れるのを) 惜しむ

L 6 思ふ心のせちなるからこそ：「せち」は「切」。切実であること。

さもえあらぬを嘆きなるなれ：え+打消||できない↓そのとおり(満開の様子をのんびり眺めたり、雲のかか
つていない月を見ること)にできないことを嘆いたのであろう。

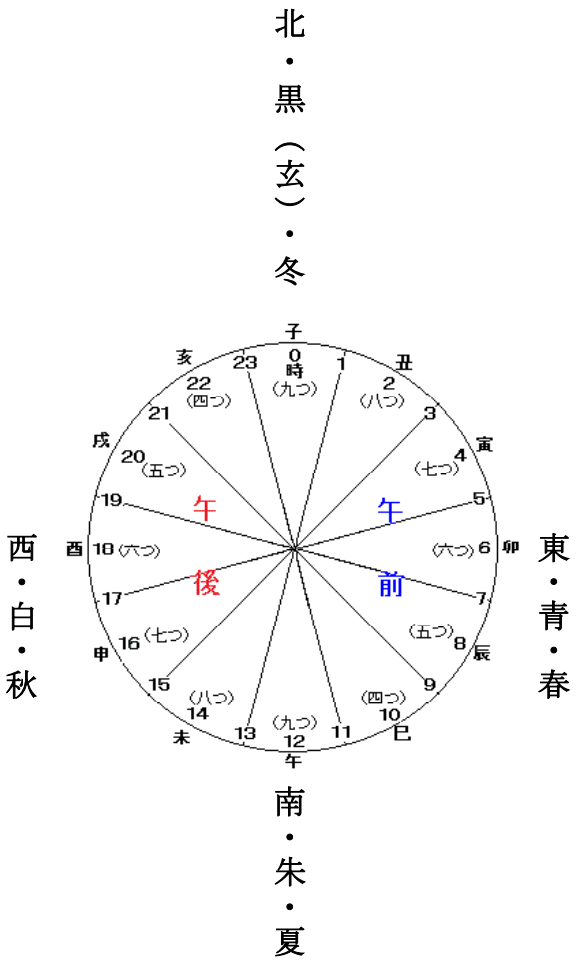
P 165 L 3 逢ひ見んことを願ふ：「逢ふ」(結婚する)「見る」(男女が関係を持つ、結婚する、妻とする)

L 4 さしも深くはおぼえぬものにて：さしも+打消||それほどにはくはない。それほど深くは感じない。

七、兼好法師と本居宣長の、和歌に関する考え方の違いをまとめて書きなさい。

・ 学習書 P 200〜201 解説の中に「二人の考え方について」、どちらに共感が持てるかを問う記述がある。そこを見つけて考えて欲しい。

十二支 方角・時刻・季節・色などいろいろなことを表すことができます。(第1回スクリーニング配布プリント・復習)



ねーねー岡村あゝ
なんで「青荷」は
「青い荷」って
書くのっ

2019年4月13日 放送

故事成語・四字熟語

※出題パターンを挙げておきますので、しっかりと勉強しておきましょう。

①レポートと同じパターン () (合の衆……「鳥」)

②レポートとは違う個所が空欄のパターン 蛍 () の功……レポートは「 () 雪の功」

③全部漢字で書かせるパターン けんぼうじゅつすう↓権謀術数

④全部よみがなを書かせるパターン 換骨奪胎↓かんこつだつたい

⑤意味を記号で選ばせるパターン 登竜門 ア・必要以上の警戒感 イ・立身出世の難関 ウ・苦学すること

⑥意味から故事成語・四字熟語を選ばせるパターン 多くのものが競い合っていること ア・捲土重来 イ・波瀾万

丈 ウ・群雄割拠

◎教科書 P 292〜295 にひととおりの目を通しておきましょう!

(例1) レポートには【故事成語】①石に () 流れに () という問題がある。() 内の言葉を埋めるだけではなく、教科書 P 292を見て、「負け惜しみの強いこと」という意味も覚えておくこと。

(例2) レポートには【四字熟語】⑦はくらんきょうきという問題がある。漢字に改めるだけではなく、教科書 P 295を見て、「広く書物を読み、よく記憶している意」という意味を覚えておくこと。